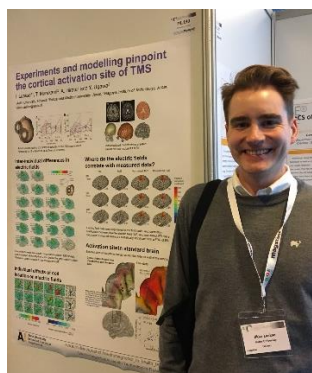


2nd International Brain Stimulation Conference に参加して

村上文伸

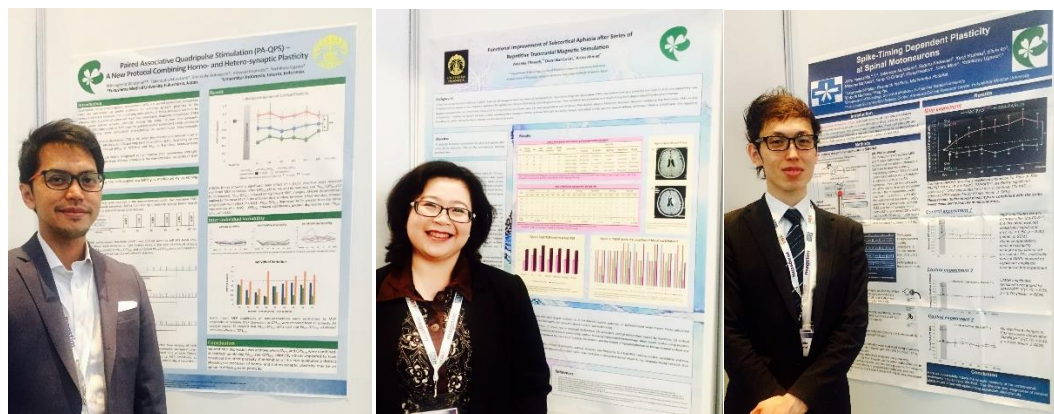
3月6-8日にスペイン・バルセロナで脳刺激の学会が開催されました。当科からは宇川教授とウィヌ先生、アマダ先生、そして村上が参加しました。また毎月はるばる大阪から福島へ研究に来られている山下先生と、共同研究しているフィンランド人のイルッカ先生も成果発表のために参加しました。シンガポールであった第一回と同様に、観光地や街の繁華街から遠く離れた空港に近いホテルが会場で、参加者を遊ばせないようにする学会側の魂胆が見え見えでした。村上は何日の午前中に現地入りし、そのまま学会会場に行ってみると、皆さんそれぞれ前日までに観光を済ませておられ、最初から出遅れてしまいました。特にウィヌ先生はアルハンブラ宮殿のあるグラナダまで足を伸ばしたとか！？村上の小中学校の同級生がグラナダでジプシーをしているので、行ってみたかったのですが、今回はお預けです。

初日はイルッカ先生の発表がありました。彼は日本アニメが大好きなアキバ系男子ですが、さすがはヨーロッパ人、数多くの鋭い質問に対しても臆することなく堂々と答えていて、そばで見ていた僕の方が萌えちゃいそうでした。次の実験計画も打ち合わせできて、さらに発展できそうです。



夜は宇川先生や花島先生を囲んで、スペイン料理を堪能しました。その席に4月から当科に来てくれる後期研修医の時村先生のお父様の時村先生もいらっしゃったので、福島へ嫁がれるご子息を預らせていただきますと挨拶させていただきました。

二日目はお昼にウィヌ先生、アマダ先生、山下先生の発表がありました。ウィヌ先生と山下先生は今、村上とやっている研究成果を発表し、アマダ先生はインドネシアの自身のデータを発表しました。三人とも厳しい質問に頑張って耐えて、何とか発表できたし、それぞれに評価してもらえました。皆さん、発表ご苦労様でした。でも学会発表が終わって満足してはだめですよ、今回指摘されたことをよく考えて論文にしましょうね♥。



午後から宇川教授のご講演がありました。前のセッションではパラパラとしか聴衆がいなかったのに、宇川先生のセッションになると途端に会場が一杯になってしまいました。講演された内容について聴衆がフォローできていたかどうかわかりませんが、冒頭にサグラダファミリア教会の尖塔の写真を出して、それをI-wavesに見立てて話を始められたところから、すべての聴衆はUgaworldへの不思議な世界へ迷い込んでしまいました。



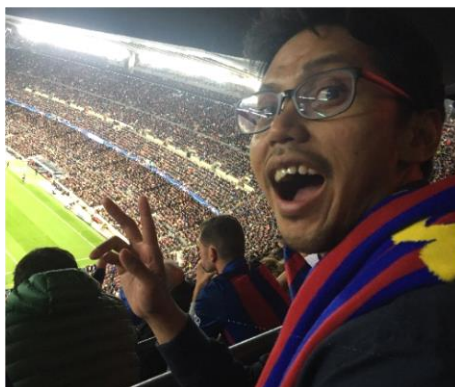
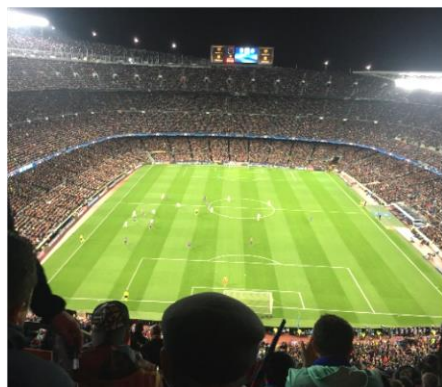
夜には Social dinner が催されたので参加しました。Social dinner は学会に参加している人との交流の場であり、有名人も参加するので、村上はこれまでもなるべく参加するようにしています。今回は NIH の Hallett 教授と話すことができました。Hallett 教授は昨年郡山で開催された臨床神経生理学会にいらした際に、間違えて福島までの新幹線の切符を買ってしまったと話していました。外国人からすると Fukushima の Kaz が開催するのだから、何の躊躇もなく福島までの切符を買ったのでしょう。

学会最終日は関心のある発表の合間に、観光がてら定番のサグラダファミリア教会とグエル公園を訪れました。どちらもよかったです。村上が一番印象に残ったことは、日本人観光客の多さでした。特にサグラダファミリア教会ではたぶんすれ違う人の3人に一人は日本人だったと思います。卒業旅行シーズンが重なったために余計なのでしょうが、世界中に中国人観光客の爆増している中で、バルセロナは日本人に人気の都市なのですね。



学会が終わってから、今学会のメインイベント(?)である、ヨーロッパチャンピオンズリーグ決勝トーナメント一回戦のカード、FCバルセロナ対パリサンジェルマンのセカンドレグをバルセロナのカンプノウスタジアムで観戦しました。ファーストレグはパリサンジェルマンに敵地で0-4で負けているので、バルセロナが勝ち上がるためには5点以上差をつけて勝たないといけません。これまでのチャンピオンズリーグの歴史の中で4点差をひっくり返した試合はありません。ところが蓋を開けてみると、6-1の大

勝利、しかも後半 43 分から 7 分間で 3 点とっての大逆転勝利となりました。超一流選手が集まったビッグクラブだから勝てたのでしょうか、選手達が最後まで諦めない姿勢に感動しました。またキャンプウに集結したバルササポーターが一丸となってチームを後押ししていることを直に感じました。神経生理研究面において福島医大神経内科がバルサになるには、諦めずに研究を続けることと、企業の皆さんの力強い後押しが不可欠なんだということをメッシやネイマールから学びました。



今回の学会でも参加者と交流することで、多くを学び、知り合いが増えてネットワークを広げられたと思います。また磁気刺激の流行についても再確認することができ、今後の研究方針を考えるうえでとても参考になったいい学会だったと思います。この文章は福島への帰路に書きました。